

## 連結貸借対照表のポイント

(単位：百万円)

科 目	当 期 末	前 期 末	前期末との増減
流 動 資 産	18,131	18,299	△168
固 定 資 産	17,763	14,979	2,784
流 動 負 債	9,710	5,919	3,791
固 定 負 債	1,570	1,522	48
純 資 産	24,614	25,837	△1,223
総 資 産	35,895	33,279	2,616

## 連結損益計算書のポイント

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期	増 減	前期比
売 上 高	22,443	28,002	△5,558	80.1%
営 業 利 益(△は損失)	△478	1,461	△1,940	—
経 常 利 益(△は損失)	△294	1,232	△1,526	—
当 期 純 利 益(△は損失)	△277	184	△462	—

## 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,377	2,261	115
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,056	85	△4,142
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,573	△2,121	3,694
現金及び現金同等物に係る換算差額	△60	△285	224
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△166	△59	△107
現金及び現金同等物の期首残高	6,821	6,880	△59
現金及び現金同等物の期末残高	6,654	6,821	△166

## 総資産 前期末比 26億1千6百万円増加

前期末に比べ、たな卸資産が約8億円減少している一方で、主として拠点再編成に伴う土地建物の取得により、有形固定資産が約29億円増加しました。これにより、総資産は、前期末比26億1千6百万円増加し、358億9千5百万円となりました。

## 負債総額 前期末比 38億3千9百万円増加

主として、前述の土地建物の取得に伴う短期借入金、また買掛金の増加により、前期末に比べ流動負債が約38億円増加しました。これにより、負債総額は前期末比38億3千9百万円増加し、112億8千1百万円となりました。

## 純資産 前期末比 12億2千3百万円減少

前期末に比べ、配当金の支払いおよび当期純損失の発生により、その他利益剰余金が減少しました。これにより、純資産は前期末比12億2千3百万円減少し、246億1千4百万円となりました。

## 営業利益 減収に伴い約19億円減少 営業損失 4億7千8百万円

各種緊急対策の実施により、前期に比べ約21億円の製造固定費および販売管理費の削減に努めましたが、売上総利益の減少を吸収するには至らず、当期は4億7千8百万円の営業損失となりました。

## 経常損失 2億9千4百万円 当期純損失 2億7千7百万円

その他営業外収益が増加したことにより、経常損失は2億9千4百万円、当期純損失は2億7千7百万円となりました。

## フリー・キャッシュ・フロー 16億7千9百万円の支出

営業活動によるキャッシュ・フローは、期後半の需要の回復傾向を受け、前期比1億1千5百万円増加しました。投資活動によるキャッシュ・フローは、主として拠点再編成に伴う土地建物の取得、また新規ソフトウェアの導入により、前期比41億4千2百万円の支出増となりました。この結果、当期のフリー・キャッシュ・フローは16億7千9百万円の支出となりました。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー 15億7千3百万円の収入

当期においては、拠点の再編等を含めた資金需要に対応するため、短期借入金による資金調達を行いました。これにより、財務活動によるキャッシュ・フローは、前期比36億9千4百万円増加し、15億7千3百万円の収入となりました。



より詳細な財務情報をご希望の方は、  
IDECホームページ「投資家情報」  
[http://www.idec.com/jpja/investor\\_center/index.html](http://www.idec.com/jpja/investor_center/index.html)  
に掲載している決算短信をご利用ください。